

Alma/PrimoVEの機能拡張について

いな き りょう
稲木 竜

(メディアセンター本部主任)

1 はじめに

2019年9月に早稲田大学図書館と慶應義塾大学メディアセンターは図書館システムの共同運用を開始し、Ex Libris社製の図書館システムであるAlmaとディスカバリーシステムのPrimoVEを導入した。運用開始から5年が経過し、導入当初から様々な機能拡張が行われている。本稿では、現在に至るまでに図書館システムに追加された代表的な機能拡張の内容について報告する。

2 クラウド型システムの利点

2010年から2019年8月まで運用されていた慶應の図書館システムKOSMOSⅢは、Ex Libris社の図書館システムであるAlephと資料検索システムであるPrimoで構成されていた。KOSMOSⅢでは学内に自館専用のサーバ機器を導入し、そのサーバ上に図書館システムを構築して運用するオンプレミス型のシステムであった。一方、現在運用中の慶應の図書館システムKOSMOSⅣのAlma/PrimoVEはクラウド型のシステムとなっていて、その利点はシステムアップデートが定期的に自動で行われていくことである。不具合修正や新機能がリリースされたタイミングで即座にシステムに反映され、利用可能となる。KOSMOSⅢまでのオンプレミス型のシステムでは、システムアップデート作業をシステム管理者側で実施する必要があった。実施計画を策定し、事前のアップデート手順の検証やトラブル時の切り戻し対応方法の検討を行うなど、大変な労力がかかり、定期的の実施することは難しく、数年に1度のタイミングでの実施となっていた。そのため、システムの修正や新機能プログラムがリリースされても即座に適用することができず、滞ってしまうというデメリットがあった。クラウド型システムの導入によりこれらの問題が解消された。

3 Alma/PrimoVEの機能アップデートサイクル

先に述べた通り、Alma/PrimoVEは定例でシス

テムアップデートが実施されている。システムアップデートには、①新機能(Main Features)、②機能改善(Additional Enhancements)、③不具合修正(Resolved Issues)が含まれる。アップデートは毎月実施されており、上記の①～③の内容が適用されるが、2022年6月以降は機能アップデートサイクルが見直され、現在は①の新機能のリリースは3ヶ月に一度、まとめてリリースされるように変更されている。これは、毎月提供される多くの新機能に対応することへの導入館側の負担について、全世界のAlma/PrimoVE導入館から意見が寄せられたことによる変更である。

表1 Alma/PrimoVEの機能リリースサイクル

<2022年5月までのリリースサイクル>		<2022年6月以降のリリースサイクル>	
月	アップデート内容	月	アップデート内容
Jan.	-Main Features -Additional Enhancements -Resolved Issues	Jan.	-Additional Enhancements -Resolved Issues
Feb.	-Main Features -Additional Enhancements -Resolved Issues	Feb.	-Main Features -Additional Enhancements -Resolved Issues
Mar.	-Main Features -Additional Enhancements -Resolved Issues	Mar.	-Additional Enhancements -Resolved Issues
Apr.	-Main Features -Additional Enhancements -Resolved Issues	Apr.	-Additional Enhancements -Resolved Issues
May.	-Main Features -Additional Enhancements -Resolved Issues	May.	-Main Features -Additional Enhancements -Resolved Issues
Jun.	-Main Features -Additional Enhancements -Resolved Issues	Jun.	-Additional Enhancements -Resolved Issues
Jul.	-Main Features -Additional Enhancements -Resolved Issues	Jul.	-Additional Enhancements -Resolved Issues
Aug.	-Main Features -Additional Enhancements -Resolved Issues	Aug.	-Main Features -Additional Enhancements -Resolved Issues
Sep.	-Main Features -Additional Enhancements -Resolved Issues	Sep.	-Additional Enhancements -Resolved Issues
Oct.	-Main Features -Additional Enhancements -Resolved Issues	Oct.	-Additional Enhancements -Resolved Issues
Nov.	-Main Features -Additional Enhancements -Resolved Issues	Nov.	-Main Features -Additional Enhancements -Resolved Issues
Dec.	-Main Features -Additional Enhancements -Resolved Issues	Dec.	-Additional Enhancements -Resolved Issues

4 ユーザ・インターフェースのアップデート

Alma/PrimoVEは数年ごとに利用しやすさやウェブデザインのトレンドなどが考慮され、ユーザ・イ

ンターフェース（以下「UI」とする）の刷新が行われる。慶應でのシステム運用中においてもUIのアップデートが行われてきた。UIのアップデートではシステムの画面の見た目や操作方法が大きく変更され、利用者への影響が大きい変更となるため、Ex Libris社によって設定された移行期間内において、新UIを適用するかどうかを選択可能な形でリリースされる。これにより、リリース後即座に新UIへの切り替えが行われるのではなく、事前に十分な検証や業務マニュアルの準備の期間を確保することができ、導入館ごとに自由に切り替え日を決めて新UIへ移行することができるようになっている。

(1) AlmaのUIアップデート

Alma全体のUIは2020年11月のアップデートで現行のレイアウトに変更された。新旧UIの大きな変更点は、ナビゲーションメニューが画面上部から左側に配置され、検索バーがヘッダー内に表示されるようになった点である。この変更により、業務担当者の作業画面の表示領域が縦に広くとられるようになり、より多くの一覧データやメタデータエディタ（目録レコードの編集機能）の情報を表示できるよう改善が行われた。

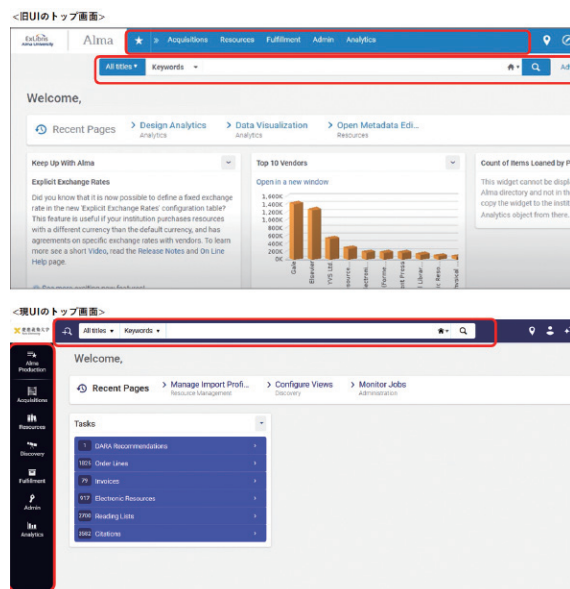


図1 Almaの新旧UIのトップ画面

AlmaのUIはシステム全体のアップデートとは別に機能ごとの改善も行われている。2024年には所蔵資料の情報検索機能のNew Title Search、利用者サービス管理機能のNew Manage Patron Services

等のアップデートが行われ、運用を開始している。これまでに追加で実装されてきた新機能を含めてシステム全体の再設計が行われたことで、一画面内でより多くの情報の確認や操作を行うことができるようになった。しかしながら、このような大幅なシステム変更時には多くの課題も発生する。リリース直後は不具合が多く発生することがあるため、切り替え前には十分な検証を行う必要があった。また、旧UIでは可能だった処理が、新UIでは不可となるケースもあり、早期の不具合修正や更なる機能改善をEx Libris社へ要望し、運用上の課題を解決していくようにしている。

(2) PrimoVEのUIアップデート

PrimoVEのUIは、オンプレミス型のPrimoから引き継がれたUIをリリース当初から利用しているもので、現在までに大きな変更は実施されていない。2025年中にPrimoVEの次期UIであるNext Discovery Experience (NDE) がリリースされ、各導入館のPrimoVEで利用可能となる予定である。今後はKOSMOSにおいても、次期UIの適用に向けて動作や独自のカスタマイズの検証を行い、計画を立て、対応を進めて行くこととなるだろう。

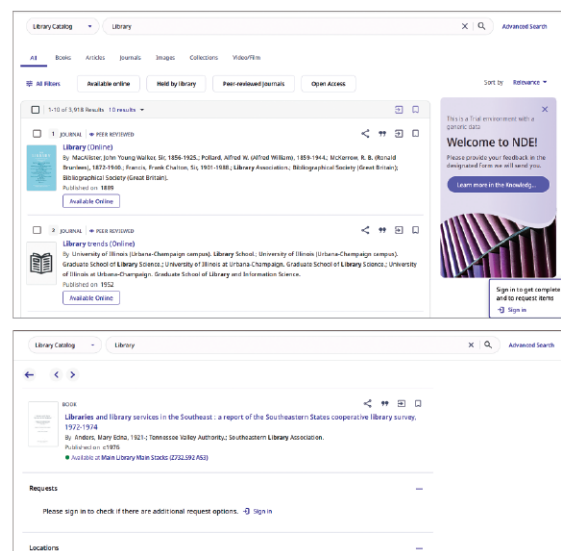


図2 PrimoVE NDEのデモ画面

5 その他の機能拡張

(1) Alma Cloud Appsの利用

Almaでは、搭載されている機能とは別に、Ex Libris社やAlmaの導入館が開発したCloud Appsという様々なアプリケーションを追加することで、機

能を拡張することができる。これらのアプリを活用することでAlmaに標準搭載されていない機能を追加し、機能を補完する専用システム等を独自に開発することなく業務の効率化を図ることができる。Cloud Appsは2025年8月現在で約80種類のアプリが提供されており、Almaの導入館はアプリを選択し、組み込んで利用することができる。慶應では2023年3月より一部のCloud Appsの利用を開始し、目録作成やデータ整備等の業務で活用している。

a NACSIS-CAT/ILL連携用のApps

運用中の代表的なCloud Appsの一例としてNACSIS-CAT/ILL連携用のAppsがある。これは、Almaに標準の機能として搭載されていないNACSIS-CAT/ILLとの連携を可能にするアプリである。このアプリを利用することで、Alma上からNACSIS-CATのデータを検索し、参照することができる。さらにCAT-P形式の書誌データをMARC21形式に変換してAlmaに取り込む機能も有している。また、このアプリを使用してNACSIS-CATの所蔵情報の更新を行うこともできる。これまで運用してきたKOSMOSⅢではNACSIS-CATとのシステム連携を行うことができず、国内製の図書館システムであるiLiswaveの目録機能を別途導入してNACSIS-CATのデータを取り扱ってきた。現在はこのアプリの導入によりAlmaからNACSIS-CATのデータを直接利用することが可能となった。NACSIS-ILLとの連携についてもこのアプリで機能が提供されているが、慶應では運用していないため、説明は割愛する。

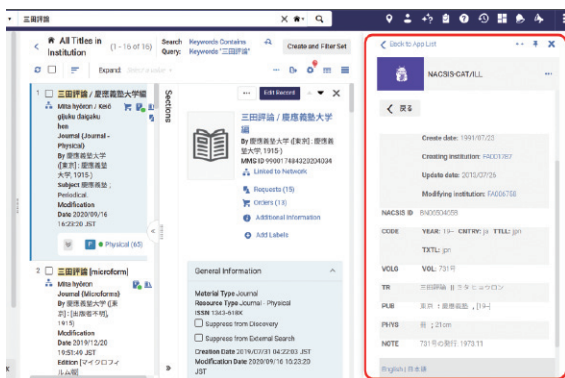


図3 Alma Cloud Apps「NACSIS-CAT/ILL」

(2) PrimoVEの機能拡張

PrimoVEについてもAlmaと同様に定例アップデー

トにて様々な機能追加が行われている。以下に、KOSMOSで運用中の主な機能について紹介する。

a Unpaywall¹⁾のフルテキストへのリンク表示

Unpaywallの情報をもとに、PrimoVEの検索結果からオープンアクセスフルテキストへのリンクを表示する機能が2021年に追加され、KOSMOSでも利用可能となっている。



図4 Unpaywallのフルテキストリンク

b 利用者からのフィードバック機能

利用者からの意見を受け付けるフィードバック機能が2022年に追加された。慶應では、図書館ウェブサイトから利用者から図書館への問い合わせを受けけるオンラインフォームがあるため、PrimoVEのフィードバック機能はKOSMOS上の電子資料へのリンク切れを報告する用途に限定して運用している。

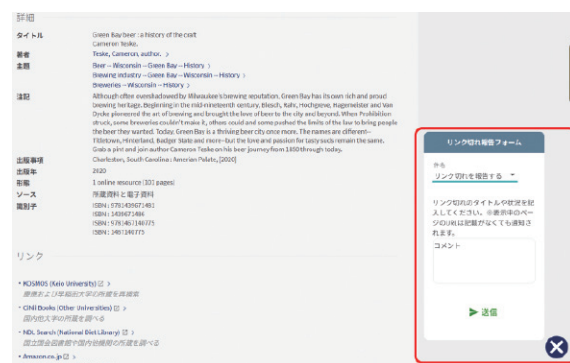


図5 KOSMOSのリンク切れ報告フォーム

c 検索結果へのバナー表示機能

PrimoVEの導入当初から運用している検索ワードに対応したおすすめデータベースやガイドを表示するResource Recommenderの追加機能として、検

検索結果一覧の上部にバナーを表示できる機能が2022年に追加された。管理用の設定画面で“Display Always”のオプションを有効にすることで、検索ワードに関係なく、常に利用者の画面に表示されるようにすることができるため、KOSMOSでは図書館のイベントや新たな取り組みの広報に活用している。



図6 バナー表示機能

6 おわりに

Alma/PrimoVEには、ここで紹介した機能以外にも図書館スタッフや利用者に有用となりうる大きな機能追加が行われているが、慶應では運用に至っていないものもある。例えばPrimoVEの典拠検索機能などがあるが、これはコンソーシアム向けに対応していないため早稲田大学図書館との共同運用においては利用できない機能となっている。また、AIを活用した検索機能であるResearch Assistantも提供されているが、これは図書館員が機能を理解し、利用者への提供について慎重に検討を行ったうえで展開していく必要がある。

これまで紹介したように、Alma/PrimoVEは今後も機能拡張が行われていくが、有用と思われる機能については今後も積極的に検討を行い、導入における課題解決を進めて、より良い図書館サービスの提供に繋げていけると良いと考えている。

注

- 1) Unpaywall
<https://unpaywall.org/>

参考文献

- 1) Ex Libris Developer Network.
<https://developers.exlibrisgroup.com/>
- 2) Ex Libris Knowledge Center.
<https://knowledge.exlibrisgroup.com/>